

インド人従業員 日本語力強化を



インド人1人1人に日本語で声を掛け、発音練習を促すギリ・ビシュヌさん(中央)=9月26日、新冠町

【新冠】日高管内の軽種馬牧場で働くインド人に日本語力を高めてもらおうと、育成牧場キタジヨファーム(町共栄)が日本語の基本表現や所作を学ぶ勉強会を立ち上げた。人手不足でインド人騎手を雇う牧場は増えているが、意思疎通では苦労が絶えない。勉強会は他の牧場の参加者も受け入れており、馬産地に共通する課題の解決につなげたい考えだ。

新冠・キタジヨファームが勉強会

キタジヨでは、競走馬の育成、調教に当たる従業員18人中、インド人が6人。海外留学した北所拓也専務(30)が得意の英語で意思疎通を図るが、インド人の母語はヒンディー語。競走馬の手入れや馬房の清掃、飼い葉作りなど多種多様な作業を進める際、急ぎ必要があるかどうかや、「ちょっと待って」といった意味合いが、十分に伝わらない悩みがあった。

キタジヨの北所直人社長(64)が、インド人の受け入れの仲介を人材紹介などの

コンサルタント会社「B&T TRADING」(苦小牧)に頼んだ縁で、日本語も堪能なネパール人、ギリ・ビシュヌ社長(37)に相談したところ、自ら勉強会の講師役を申し出てくれた。

(升田一憲)

会場に、第1回は9月26日に開いた。参加無料で、近隣牧場で働くインド人にも声を掛け、約30人が集まった。「はじめてまして」「どちらから来ましたか」などの表現を繰り返した。参加者のうち、町内の牧場で働く

印度人、サルウェスワル・ジャットさん(34)は「日本にいる以上、しっかり学びたい」と意欲的だ。

印度人を2人雇う日高町の奥山牧場のマネジャー(39)は「人手不足で日本人を雇うことができない現状では、印度人に頼らざるを得ない。語学はとても大事だ」と話す。

9月末現在、新冠町内の在留印度人は51人で、近隣の日高町も81人、新ひだか町も40人。キタジヨは月1回の頻度で勉強会を催す予定で、約1時間以内で通えるこの3町の牧場に声を掛けている。

北所社長は「印度人の悩みにも耳を傾け、安定的な雇用につながれば牧場の利点も大きい」と話し、情報交換の場にも役立てる



浦河支局
〒057-0024
浦河町築地2丁目2-8
☎0146-22-2163
FAX 22-3966

静内支局
〒056-0017
新ひだか町静内御幸町
6丁目2-10
☎0146-42-1350
FAX 43-3400

他牧場から参加OK

「安定雇用に貢献」